

和服リフォームにおけるデザインの提案

——紋羽織からセパレートタイプイブニングドレスへ——

今 井 裕 子

Proposal for a Design to Reform Traditional Japanese Clothes

—— Make an Evening Dress by a Crested Haori ——

Yuuko IMAI

Key words : 紋羽織 haori with a family crest (a short coat for formal Japanese garment bearing on a family crest),
和服 traditional Japanese clothes, 巻きスカート wrap skirt, セパレートドレス separate dress

1. は じ め に

家族の思い出が詰まった着物は単に保存するのではなく、被服構成学的視点からリフォームして利用しながら受け継ぐことを提案してきた。

前報¹⁾では仮仕立の未使用大裁女物長着から洋服へのリフォームを提案した。そこでは、仕立て上がり丈が長く面積も広い絵羽模様の連続性を生かすデザインを考案し、「ガウン」を製作し報告した。

今回は、祖母が生前着用していた羽織をリフォームし、これを広島文化短期大学コミュニティ生活学科第7回卒業制作ファッションショーにおいて、教師賛助作品としてイブニングドレス「黒の紋」を出品した。

本報では、着丈が短く面積が狭い和服をリフォーム利用する場合の被服構成上の工夫を提案する。

2. デ ザ イ ン

2-1 リフォーム対象和服の観察

(1) リフォームする羽織素材は、縫い取りひとつ紋、絹綸子の黒地（表地）、絹羽二重（肩裏）で、祖母が礼装時に着用していた思い入れのある羽織のため、元の形を極力残す工夫をした。

(2) 当該羽織の仕立て上がりの着丈は 80 cm あるので、このままの丈をボトムの丈に利用した。

(3) 羽織の幅は、前身頃、裾（まち）、後身頃と続い

ているので、解かずにボトムの幅方向として利用する工夫をした。

(4) 丈 50 cm の袖は、袖山の「わ」を利用し袖底を解き、1 m の 1 枚の布として利用した。

(5) 衿は解き広げると並幅でおよそ 2 m の布になるので、ドレストップのブラジャーとボトムのスカートベルト布に利用した。

2-2 デザインコンセプトと作品タイトル

(1) 羽織が紋入りであることを生かすため、日常着でなく、フォーマルウェアと企画した。

(2) ドレストップはボトムと共布とするが、布分量が大裁女物長着に比べ少ないため、セパレートタイプとした。セパレートドレスでは肌の露出が大きいので、昼の礼装ドレスではなく、ローブデコルテタイプで夜の礼装ドレスのイブニングドレスとしてスタイリングした。

(3) 羽織丈の長さを考慮してボトム（ロングスカート）に設定し、和服を意識してフロア丈のラップスカートとした。

(4) 品位を高めるため、オーバーブラウスを別布（フリンジ付きレース）で製作し、夜の礼装らしい煌きを添えるようにスパンコールとビーズを配した。

(5) アクセサリーにチョーカーを製作した。

(6) 統一感とフォーマルとしての落ち着きを出した

め、同一服飾品（スパンコールブレード）をボトム、ドレストップ、オーバーブラウス、チョーカーに配した。

(7) 作品タイトルは、羽織の縫い取りひとつ紋から「黒の紋」とした。

2-3 造形上の工夫

(1) イブニングドレスボトム（スカート部分）のデザインはラップスカートとし、ロング丈である。

羽織（大裁ち女物袴羽織）は、図1のように衿がなく、衿は前身頃側に折り返り、下に着装している女物長着の衿と帯・帯留め・帯締めなどの和服の美を隠さないように構成されているため、大裁ち女物袴長着とは異なり、前身頃に重なりがなく、腰まわりの分量が不足している。そこで、解いた袖を縦二つ折りとして左右の袖をそれぞれスカートの端に縫いつけ、ラップスカートの重なりとした。

ファッションショーに出品するため、着用モデルは身長 160 cm の卒業生を予定した。ボトムサイズについてはジャストウエストのスカートにすると身長が高いためカクテルドレスミディ丈にしかならないので、イブニングドレスアンクル丈あるいはフロア丈にするために、ローウエストにした。

(2) イブニングドレスボトム（スカート部分）のシルエットづくりは、和服特有の直線裁ちである羽織を利用しているので、ウエストからミドルヒップ、ヒップにかけての身体の丸みがこのままでは表現できない。そこで着用予定者の体型に近い人台を利用し脇線を決め、立体構成の手法を用い前後のタックを取った。

(3) ドレストップのデザインは羽織衿布を緯方向使いにし、バスト周径を覆うデザイン、すなわちストラップレスブラジャーとした。しっかりとしたバスト

シルエットを作るため縦の切り替え線を多くし、さらに日常生活上の動作をしてもずれ落ちないようにバストトップラインとパネルラインにライクボーンを使用した。

3. 製作

3-1 ドレスボトムのラップスカートづくり

(1) 羽織の表地と裏地がずれないように、身頃の袖付け線と衿付け線近くに、しつけをかけ、衿を解き、肩線を裁断した。

(2) 解いた袖の裏地を除き縦長二つ折りし、羽織の解いた衿部分に図2のように縫い合わせ、巻きスカー

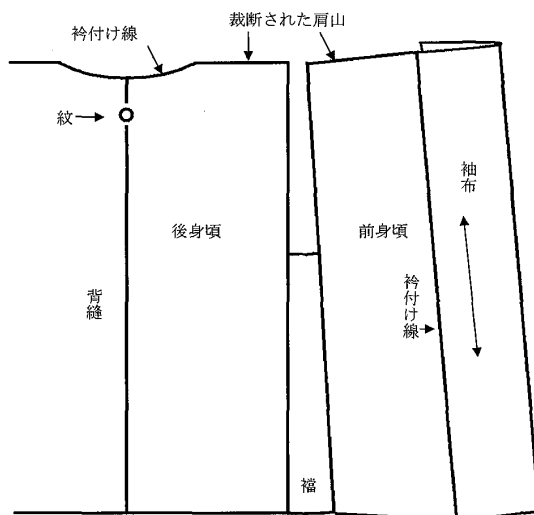


図2 解いた羽織に袖をつけた略図

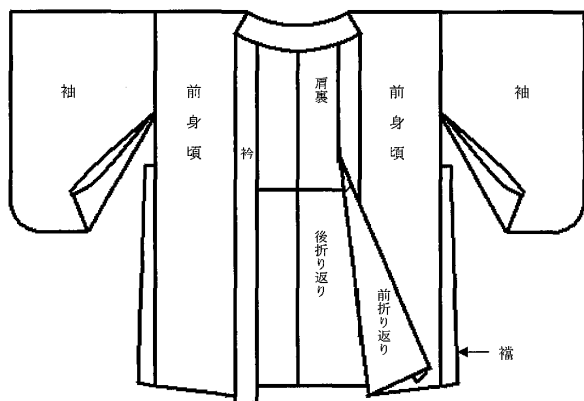


図1 大裁ち女物袴羽織の略図

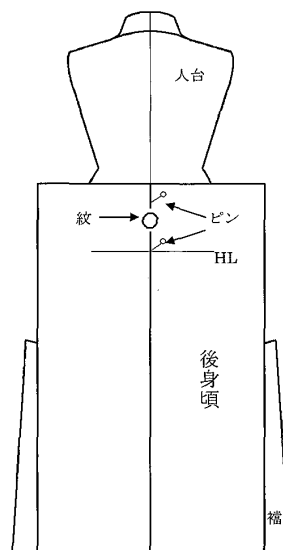


図3 人台を使ったドレスボトムのピン打ち

トの前重なりとした。

(3) 図3のように羽織の後ろ中心を人台の背中心でローウエストラインとヒップラインの位置の2箇所にシルクピンで留めた。

(4) 人台の脇線と羽織の袖付け線が合う位置で羽織の裾線を床に水平になるようピンで留めた。

(5) 後袖付け線がローウエストの位置で人台の脇線より2 cm (ダーツ分相当) はみ出るようにピンで留めた。

(6) 後中心から脇線にかけて弛んだ分量は、体の変曲線近くでタックを取り、身体を包み込む形とした。

(7) 前スカート部分の脇線でははみ出し長さを、後に比べ3 cm と多くし、タック分量を減らした。

(8) 人台脇線上で生じた前後の重なりは、重ね縫い処理をした。

(9) ラップスカートの重なり部分では前中心を求め、

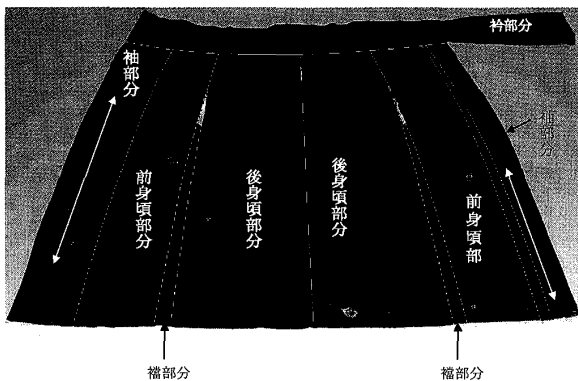


写真1 ラップスカート（表）の構成
記入名称：使用した羽織各部名称

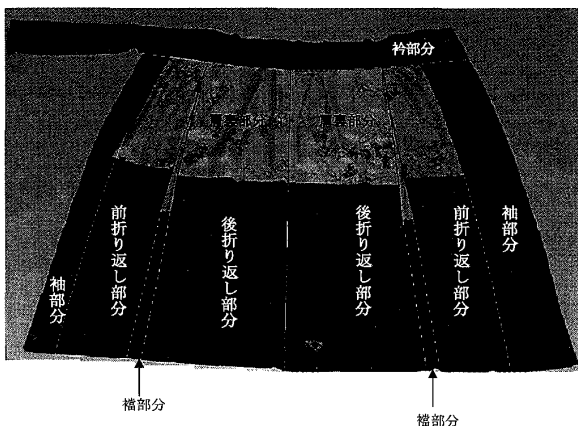


写真2 ラップスカート（裏）の構成
記入名称：使用した羽織各部名称

右前スカートにつけた袖（半幅）分量の半分量を羽織の衿のように表側に折り返した。（写真1，写真2 参照）

3-2 ドレスボトムベルトづくり

(1) 衿は折りたたみを解き、並幅に戻した。

(2) 羽織の衿からドレストップ作りに必要な布分量を裁断し、残りをボトムのウエストベルトに使用した。接着芯は張らず、羽織の衿の折りたたみを生かし、やわらかい雰囲気のあるローウエストベルトとした。

(3) ローウエスト位置にはウエストベルトの縫い代に3センチ幅インサイベルトを縫い、カギホックをつけ、スカートがずり落ちないようにした。

3-3 ドレストップづくり

(1) モデル寸法の新文化式原型（身頃）を製図し組み立て、着用予定者の体型に近い人台に載せ、ラインテープでブラジャーをかたどり、身体の丸みを出すためにダーツの分量を切り替え線としてダーツ展開し、ラインテープ通りに切断し、型紙とした。

(2) 接着芯を貼り、表布と裏布をそれぞれ縫製した。

(3) 裏布には、生活上の動きをしてもずれないようにバストのトップライン（図4 a-b）と、張りを出すため切り替え線にライクボーンを縫いつけ、表と裏を縫い合わせた。

(4) モデルの寸法にあわせスプリングホックを付け、ループを作った。

(5) 伸び止として、オーバーブラウスとの素材の共通性を持たせるため、また、オーバーブラウスを脱いでもイブニングドレスとしての華やかさを保つため、ドレストップのネックサイド（図4 c-d）にスパンコールブレードを縫い付けた。

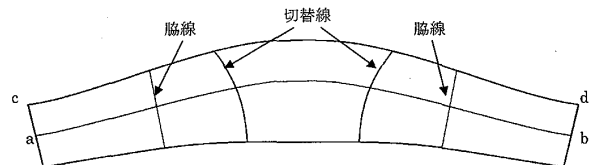


図4 ドレストップのデザイン

3-4 オーバーブラウスづくり

(1) 柔らかく、透ける素材のフリンジ付のレースを使用し、着用予定者の術寸法2倍の長さを2枚裁断した。

(2) スパンコールブレードを図4のような位置に使用し、ブレードをブラウスの肩紐としてまた、柔かいレースをしっかりとさせ、ブラウスの型崩れを防止した。

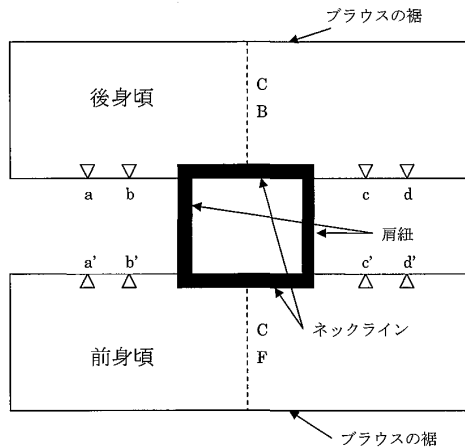


図5 オーバーブラウスのデザイン

(3) 図5の合印 a と a', b と b', c と c' および d と d' を縫い留めた。

(4) スパンコールとビーズを前後身頃の中央付近に縫い付けた。前後の区別がつくよう、前身頃に多く縫い付けた。

3-5 アクセサリーづくり

(1) 着用予定者の首周り寸法にスパンコールブレードを裁断し、両端に留め具をつけ、チョーカーの形を作った。幅はスパンコールブレードそのままの幅を使用した。

(2) チョーカー中央にパールタイプのブローチをつけた。

4. 着 装

身長 160 cm のモデルの予定で製作したイブニングドレスは写真3と写真4である。

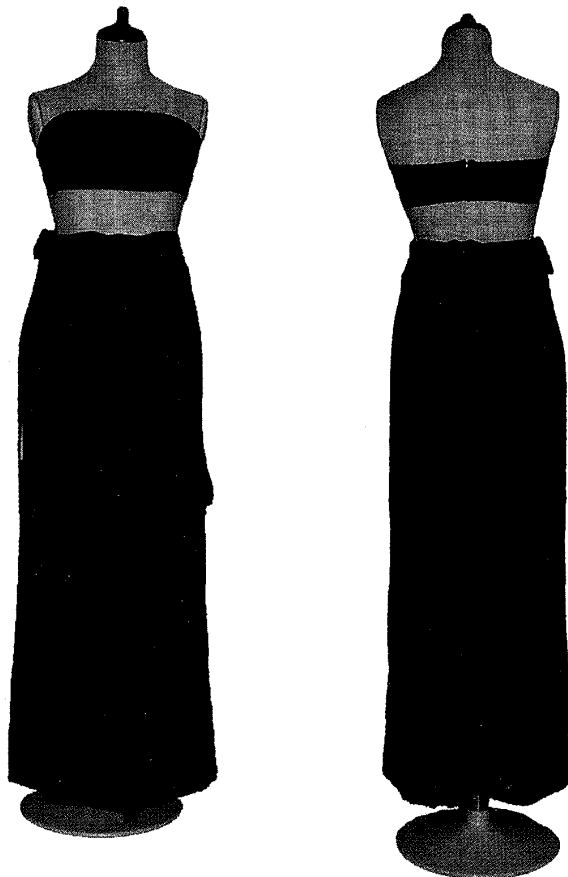


写真3 羽織からリフォームしたイブニングドレス
左：前姿 右：後姿

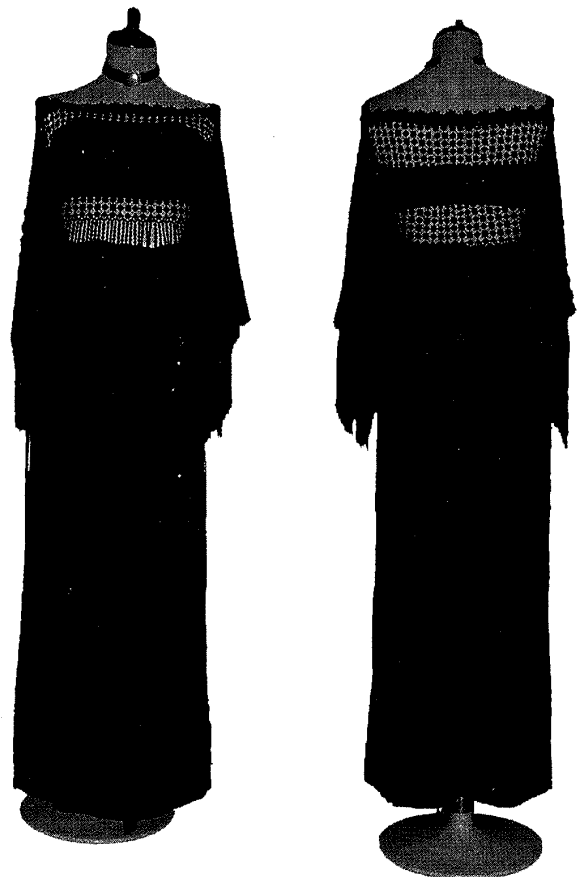


写真4 コーディネートしたイブニングドレス
左：前姿 右：後姿

平成18年1月29日（日）に開催された広島文化短期大学コミュニティ生活学科第7回卒業制作ファッションショーでは、着装予定者の仕事の都合により急遽身長およそ150 cmの卒業生に依頼した。

当初予定モデルの着装イメージとしては、ドレスボトム（ロングスカート）はフロア丈、ヒップハングのローウエストで企画を遂行していた。しかし、実際に着装することになったモデルの身長が予定モデルより低かったため、ボトム着装位置をジャストウエストに

変更した。

今回はセパレートタイプのデザインにしていたので、多少の身長差があっても着装時の工夫により、当初のイブニングドレスのシルエットを損なうことなく、発表することができた。

写真5から写真7がファッションショーの写真である。

5. ま と め

紋羽織からドレスへのリフォームをする場合、以下のように被服構成上の工夫を行うことにより面積が狭くても、ロングドレスを製作することができた。

1. デザイン上の工夫として、トップをローブデコルテとし、ボトムを切り離してセパレートタイプにする。
2. スタイリング上の工夫として、和服のリメイクドレスとオーバーブラウスにスパンコールブレードを使用することにより、調和したイブニングドレスとなった。
3. 造形上の工夫として、羽織の前下がりと袖を利用して重なりのあるラップスカートとした。

引 用 文 献

- 1) 今井裕子, 和服リフォームにおけるデザインおよび縫製技術上の提案, 広島文化短期大学紀要 38, 1-7 (2005)



写真5
後姿

写真6
前姿-1

写真7
前姿-2

ファッションショーでの着装姿（モデル 朴 香蘭）

Summary

I proposed ideas of making an evening dress from the crested black haori.

Reforming a favorite garment that was inherited from one of his/her old family members is a way of expressing one's gratitude and showing its usefulness.

1. A haori with a family crest, a short coat for Japanese formal garment with on a family crest, has narrow fabric width and was shorter length and smaller area than a long kimono.

The separate long dress was designed with the concept of Robe decoltee for the top part and a long skirt for the bottom part.

2. In order to match the three-pieces-dress together, Spangles braids were used on edges and shoulder straps of the dress top, and also on a fringe of the overblouse.
3. The sleeves of the crested haori were used for making a layer part of the wrap long skirt.